



出栄の森



平成23年10月 毎月1日発行 第40号

発行者 光栄プロテック 木之下



下半期に向けて

代表取締役 三田雅憲

大きな台風が過ぎて、本格的な秋の様相を見せておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？東日本大震災や原発の問題、政局の問題、円高などの経済的な問題どれひとつスカッと解決せず悶々とする問題ばかりですが、自然の季節は確実にその営みを前に進めています。本日の当社朝会でお話した内容ですが、社員ご家族の皆様にも共有していただきたく、お伝えします。

早稲田大学が今年の大学駅伝の3冠(全日本大学駅伝・出雲駅伝・箱根駅伝)を達成したそうですが早稲田大学の駅伝監督の渡辺さんにラジオのMC(司会進行)がインタビューをしています。

MC「どれくらいの練習をされているのですか？」

渡辺「台宿する場合は、朝ごはんを食べる前に15km、ご飯を食べた後少し休憩を取って15km。そして午後から本練で、そこで45~50km走ります。10日で1000kmくらいは練習で走ります。」

MC「1日にそんなに練習するのですか？(驚き)」

渡辺「どこの大学でも最低その程度の練習はしています。」

MC「早稲田はスポーツ推薦枠が少ないそうですが、大丈夫ですか。」

渡辺「うちで言えばあまり関係ないです。しっかりと練習についていけば、たとえ高校のとき無名選手であっても、必ずメンバーになれる実力が備わります。やる気と努力が大切だと思います。」

MC「1冠・2冠優勝のときは胸上げされなかったようですね。3冠とって胸上げされたとか。」

渡辺「当初から目標は絶対に3冠を取るとしてたから。3冠したら胸上げしよう。」

MC「すごい！志が高いですね。目標が高いというか。」

渡辺「一人ひとりが高い目標を持っていかなければ記録などは伸びていきません。今回早稲田は大会レコード(大会記録)で優勝したのですが、これは一人の自己記録を1分程度縮めなければ到達できません。一人ひとりが記録のためにがんばったといえるでしょう。」

MC「超高速駅伝の到来ですね。」

渡辺「一番大切なことは、チームの団結力です。どれだけ個人レベルの高い選手がいても、チーム皆で協力して勝とうと思わないと絶対に勝てないです。オレの記録さえ良ければよいというような考えでは全体として良くはならないのです。ですから仲間を思う気持ちや手相の事を考え全体を見るようなことが大切です。」

渡辺監督： 1973年生まれ 市立船橋高校を経て、早稲田大学入学して1年次よりレギュラー。

12年間優勝から離れていた早稲田箱根駅伝の復路優勝に貢献する。

数々の新記録を立て『天才ランナー』の名をほしいままにする。オリンピック1万メートル銅メダリスト。早稲田の先輩である瀬古のもとであるアスビー食品に入社するが、長年の疲労などの故障のため一線を引く。

母校早稲田大学の監督として2004年招聘され、早稲田復活の立役者となる。早稲田大学準教授。好きな言葉は『有言実行』

渡辺さんのように、非常にすぐれた才能の持ち主であり、努力家で数々の栄光ある記録を持った人でも自分自身ではなく、チームの団結力が大切であると言っておられます。もっと言えば、とりとりわけ天才がいなくても一人ひとりが1.2から1.3倍の力を出せばどんなチームでもクオリティが上がると思っています。

当社においても一人ひとりが2割増しの力と同僚や先輩との絆(団結力)をもつことで、勝ち残っていけるのではないかと感じました。上半期を迎えるにあたり皆で心しがんばっていきたい事柄です。